

抗肥満および抗糖尿病活性を有する食品の開発

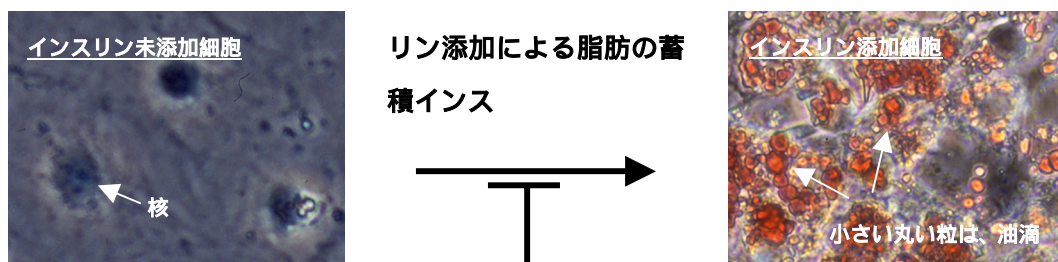
理学部臨床生命科学科

松浦信康（食品薬学研究室）

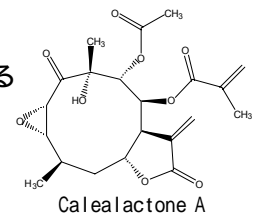
Key word : 脂肪細胞、食品、タンパク質糖化反応、肥満、糖尿病、生活習慣病

1. 抗肥満活性を有する食品の開発

脂肪細胞は、インスリンの刺激により血中グルコースを細胞内へ取り込み、代謝を行い、脂肪へと変化させ脂肪粒として蓄積する。この一連の過程を阻害する食品を発見することにより、抗肥満効果を有する食品を開発した。

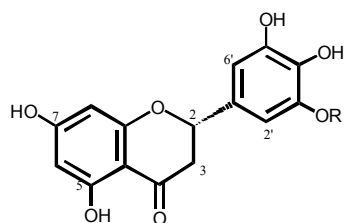


当研究室では、南米（エルサルバドル）においてお茶として飲用されている植物に活性を見だし、その成分を明らかにした。



2. 抗糖尿病活性を有する食品の開発

糖尿病患者のように血中グルコース濃度が高い状態が続くと、生体内のタンパク質とグルコースが化学反応をおこし、AGEs (Advanced Glycation Endproducts) と呼ばれる化合物群が生成する。これら化合物は糖尿病合併症（腎症、網膜症、神経障害）発症原因の一つであることから、この化学反応進行を阻害する食品を開発し、抗糖尿病活性を有する生薬を発見し、その成分を明らかにした。



Plantagoside : 車前子（オオバコ
の種子）に含まれるフラボノイド
化合物

